

サッカーが紛争調停に持つ可能性に関する研究 ～中米、ユーゴスラビア、パレスチナの事例を比較して～

A study of the potential of football on the reconciliation of international conflicts
～A comparative study on the cases of Central America, Yugoslavia and Palestine～

1K04B162-2

中村 真吾

指導教員

主査 石井昌幸先生

副査 吉永武史先生

緒言

サッカーは現在最もグローバル化の進んだスポーツであり、世界で最大の競技人口を誇っている。しかし、世界には戦争等の政治的な理由により、競技から締め出されている人々がいる。

これは許し難い事実であり、解決されなければならない問題である。したがってサッカーとその周辺で起こる出来事を調べ比較し、サッカーが平和に貢献できるかどうかを探りたいと思った。

序論

1、研究目的

本研究では、サッカーの起源と戦争を切り口に、以下の命題に答えたい。

問、サッカーは政治を超える存在、そして人々を動かす存在になりうるのか。

そしてこの命題の答えを導き出し分析することにより、サッカーが紛争調停に持つ可能性についての見解を導きたい。

2、研究方法

サッカーの起源・歴史と戦争、さらには中米、ユーゴスラビア、パレスチナなど具体的な紛争地域について調べ、それらの結果をもとに比較、検討をする。

本論

I、サッカーの起源と戦争について調べた。サッカーの起源、歴史から、その特性は戦争に似ている点がいくつか見受けられた。中世イングランドではサッカーの試合において、勝利に固執するあまり、死傷者の発生や他人の財産を損ねた例も存在する。そしてサッカーを取り巻く世界は戦争の背景と同様に複雑である。

II、中米のサッカー戦争について調べた。この戦争は、もともと対立していたホンジュラスとエルサルバドルの間で、サッカーの試合を引き金にして起こったものである。両国には民族、言語、宗教などによった違いはほとんどみられない。両国の対立の原因は、経済格差や生活水準の違いのせいで生まれた領土問題によるものであった。

III、旧ユーゴスラビアに関することを調べた。旧ユーゴスラビアは「7つの国境」、「6つの共和国」、「5つの民族」、「4つの言語」、「3つの宗教」、「2種類の文

字」という複雑な要素で構成されていた。各地で紛争が起こり、解体が進んだ原因は、このような民族、言語、宗教の違いが、民族自決の動きと共に顕在化したことであった。そして解体に伴い、同じ代表チームの仲間としてプレーしていた選手が、別々の国の代表チームとして対戦するという、皮肉な現象が生まれた。

世論や政治的圧力に屈することなく代表チームをまとめあげ、選手の信頼をつかんだイビチャ・オシム監督にも注目した。

IV、パレスチナ問題からみるサッカーと紛争について明らかにした。そのために第一にサッカーと国家、第二にパレスチナの歴史、第三にサッカーパレスチナ代表の存在意義について調べた。

FIFA加盟国数は国連加盟国数を凌駕し、サッカーにおける共同体は国家単位ではおさまりがつかないことがわかる。パレスチナに限っては、まだ国として認められていないのに、サッカー代表チームがFIFAから認められ存在している。パレスチナは、イスラエルへの抵抗を示すのに武力ではなく、サッカー代表チームを世に存在させることで解決を試みている。そして代表チームはパレスチナ人にとって民族的アイデンティティを見つけるための希望であり、誇りとして存在している。

結論

サッカーとそれを取り巻く事情は世界各国で異なり一概にして言うことは難しいことであるが、サッカーが一部の地域では政治を越え、人々の心を強く動かしているということが言える。中米ではサッカーの試合が戦争の引き金となった。ユーゴスラビアでは戦争に対する罰則としてサッカーの国際試合が禁止された。この二つの事例では、サッカーが政治を超えたというよりは、サッカーが政治に利用されたといえる。他方で、パレスチナでは、サッカーが武力を抑え、民族の希望、誇りとなり、人々を動かす存在となっていることがわかる。

人間としての尊厳、民族の存在を明らかにするための意思、そして、国としての誇りを賭けてボールを蹴っている人たちがいる。本研究を通して、サッカーが持つ紛争調停に関する可能性、及び人々に与える影響力と可能性の大きさを知ることができた。